



私ってなに？
世界ってなに？
永遠の問いへの
旅に出る学校

特集/対談

シュタイナー学園の校外学習

授業と体験を通して育まれるもの

教えてください！

校外学習の思い出

FUJINO STEINER COLUMN 20期卒業生 石橋初季さん

シュタイナー学園の 校外学習

授業と体験を通して育まれるもの



歴史旅行



サバイバル合宿



米作り

増淵智先生(中部部長・数学専科) 岩崎有華先生(初等部担任)

脇元克也先生(高等部アドバイザー・保健体育専科)

インタビュー / 柳田真樹子(事務局広報)ライター / 越野美樹

地に足をつけ俯瞰し
「私とあなた」を認識

—— 校外学習と普段の学びにはどのようなつながりがありますか？

増淵…例えば3年生では、『古事記』で物事のはじまりを学び、食物の神様とのつながりから米作りを行います。地に足をつけはじめの時期、大地を意識した学びです。岩崎…種もみを撒き、代かき、田植え、収穫、天日干し、脱穀。ご飯を炊いておにぎりを握り…という一連の流れは、子どもたちの喜びにつながります。

—— 3年生では、職業体験もありますよね？

岩崎…地は陶器、水は紙すき、火は鍛冶屋など、地水火風の要素を取り入れています。

—— 林業の体験も行いますが、山に入って斧で木を切り倒す作業は圧巻ですね。その木を使って、4年生になると家作りですね。

岩崎…世界の家を研究し、家はその土地の気候風土に合ったものであることを知り、自分たちにはどんな家が作れるかを考えます。校

る。これが揚力です。校外学習の前に紙とストローで気流の実験や、扇風機とパラグライダーの翼模型で実験をしました。

岩崎…子どもたちは、機械を使わず空を飛べることに感動していました。

—— カヌーは浮力の学びでしうか？

増淵…それもありますが、私は大航海時代の学びから入りました。周りの大人に対して疑問がわいてくる時期、自分で自身自身をコントロールし、責任を持つ体験をして欲しくて、7年生で行いました。

岩崎…8年生で水の重さや抵抗など圧力を学ぶので、私はパラグライダー合宿と一緒に行いました。

—— 8年生のサバイバル合宿は、ハードですね。

岩崎…タープ張りから炊事まで自分たちでやります。3日分の食材や道具をリュックに詰めて山に登り、濡れた木に火がつかないこともありましたが、子どもた



農業実習

庭に穴を掘って大きな柱をみんなを立てたり、得意な子がロープをギューツと結ぶなど、協力することも学びます。

増淵…世界の家の共通点は屋根と壁があり、雨や風から身を守ることに。自意識など心の動きが活発になるこの時期は、子ども自身も内側と外側の空間を作り、自分と他者をはっきりと認識していきます。柱を立て、土台をしっかり固める作業は、自分と家を無意識のうちに重ねて捉えられます。

岩崎…この時期に自分たちの手で柱を立て、覆いを作る作業をすることで、しっかりと根ざして立つことができます。また、尋(ひろ)などの体を使って測る3年生の学びも活用します。

—— 学んだことや自分の手足が役に立つと、自信につながりますね。また、4年生は郷土学がありますよね？

増淵…近視眼的なところから、俯瞰して見られるよう促します。岩崎…鳥に乗って空から町を一望する子のお話をして、教室を上から見たら、山から学校を見たら…と俯瞰します。近隣の方にも

ちは全部やり遂げてたくましくなりました。

人の役に立つ楽しさ
仲間と協働する楽しさ

—— 9年生の農業実習にはどういう意図があるのですか？

増淵…9年生は第一次産業で農業実習、10年生は第二次産業で職業実習、11年生は第三次産業で福祉実習を行います。

脇元…農業実習は一日中同じ農作業を行い活動量も多いので、大変さも感じる実習です。食事や掃除の当番、洗濯機や風呂の順番も声を掛け合い、共同生活することも学びです。普段当たり前に出ている食事のありがたみがわかるという感想もありました。

—— 10年生の職業実習はどういう意図ですか？

脇元…文明発生史で物の起源を学び、物がどんな人の手でどのようなに作られているのかを学びに行きます。自分で作った物がお客さまの役に立つことが、サンタからプレゼントをもらうくらい嬉しかったという生徒もいました。

お話を聞き、地域のことを学びました。

増淵…空中から落ちてきた水滴が波紋となって広がっていくように、家から郷土に意識の広がりを促します。さらに5年生では日本地理の学びで保護者など身近な人に故郷の話聞き、6年生になるとアジアからヨーロッパへ、世界の暑い国から寒い国へと徐々に視野を広げていきます。

その時期ならではの感動
学びが心身に入ってくる

—— 5年生では動物学で動物園やムササビ観察に行き、6年生では鉱物採取に行きますよね？

増淵…動物からはじまり植物、鉱物と、だんだん人間から親和性が離れるものに移行し、物質に焦点をあてていきます。骨がたくなり手足が長くなる時期に、地球の中で結晶化する鉱物を観察します。岩崎…火山などの地形から鉱物が生まれるお話をしますが、マグマの中から緑色の宝石のようなカンラン石が生まれることを知ったときには、私自身も改めて美しさと

6年生の歴史旅行で

行った奈良公園、
来るわ来るわ鹿たちよ！
一生懸命描いた

大事なメモを
大きな鹿に
食べられた！

友だちと連携プレーで
取り返すも、
半分しか残らず…。



6年生の歴史旅行、

毎年子どもたちが楽しみにしているのは、

宿泊先
「矢田寺」のご飯。

手作り2段弁当、手の込んだ精進料理、
ほっぺたが落ちる特製カレー。
(玉ねぎ200個入りです)
毎日心も体も満たされ
幸せな日々でした。



教えてください！

校外学習の思い出

先生方に印象に残っている
エピソードを聞きました。



9年生の農業実習、

お世話になった農家さんとの
お別れ会のため夜遅くまで
企画を練る子どもたち。
2週間の農業実習の思い出を振り返り、

ハグを交わし
号泣する子が
続出

でした。



7年生のカヌー体験、

はじめてのカヌー、
「湖に落ちたらどうしよう…」と

不安げな
子どもたち。

しかし、1時間もしたら…。
落ちてもへっちゃら！荒波に向かう。

立ち乗り挑戦、

最後は
何度も落ちて
大笑い！

大いに楽しみました。



11年生の航海実習で駿河湾横断中、思い届いてか

10頭近いイルカが帆船の周りを
長い時間、歌い踊り伴走してくれました。
手で触れそうなくらい近く、驚きと喜びに満たされました。



航海実習

—— 10年生の測量実習は数学の
学びですか？

増淵…三角比の実習です。三角形
の辺と角の関係性を学んだ後、実
際に測量に行き、数学が自分たち
の生活にどのように活きるのかを
体感します。敷地内を測量して地
図を作りますが、川幅などの測れ
ない場所も、三角比を用いて計算
することで算出できます。

—— 11年生の航海実習は楽しそ
うですね。

増淵…11年生で球面幾何学や天文
学を学びますが、平面から球面
になったときに図形概念が変わり
ます。船では陸に見える目標を定
めて計算します。

脇元…船酔いする生徒がいたり、
帆が暴れて思った方向に進まなか
ったり、ノット（速さ）が出なか

ったりいろいろとあります。舵と
りする生徒、帆を張る生徒、ボー
ツと海を眺める生徒も、船長から
「オールハンスオンデッキ」と声
がかかる、すぐにデッキに集合
します。全員が関わらないと船が
進まないと実感でき、責任感も育
まれます。風を読み自分で進む道
を決め、船を操作する体験が心に
響き、運輸業に就職した生徒もい
ます。

—— 福祉実習は3週間ですね。

脇元…それぞれ体験も異なります
が、障がいのある方への見方・考
え方・接し方が変わったという生
徒が多いですね。保健体育の授業
で多様性を学び、ディスカッショ
ンを行います。福祉実習を終え
ると人と接することがどうい
うのか、心の中に落ちてくるよ
うです。

—— 最後に、シュタイナー教育
にとって校外実習とはどういうも
のですか？

増淵…思春期の子は感情を表に出
すことは少ないですが、体験した
ことは心の中に深く残っているよ
うです。それは卒業生からの声で
わかります。ただの楽しみではな

く、普段の学びとつながっている
ということが大切ですね。

岩崎…体験から学べることは本当
に大きいですが、友だちと共に過
ごし、共に学ぶことで得られる
絆、自分の得意なことや役割に気
づくことが、学び以上に大きいと
思います。

脇元…私も高校までシュタイナー
学園で生徒として過ごしました
が、米も家も洋服も自分で作れ、
「基本的なことは何でもできる」
と思えるようになったことが大き
な力になりました。苦手なこと
はたくさんあるができないことは
ない、と思えるようになりました。



シュタイナー学園校外学習の流れ



FUJINO STEINER COLUMN

卒業生インタビュー

20期卒業生 石橋初季さん *Hatsuki Ishibashi*

高校生のときから自分の意思を持って、卒業プロジェクトのためにインドの孤児院を訪問するなど、道を切り拓いていた20期卒業生の石橋初季さん。「助産師としてお産に携わりたい」と、大学卒業後は愛媛の病院で夢への一歩を踏み出しました。シュタイナー学園で過ごした子ども時代から現在までのお話を聞きました。

※2023年7月の取材時の内容です。



▼シュタイナー教育との出会いや印象に残っている学びを教えてください。

両親がシュタイナー教育に共感し、シュタイナー教育を取り入れた幼稚園に通い、シュタイナー学園入学に合わせて藤野に引っ越しました。わたしは新しい環境になれるのに時間がかかり、校門で母と離れられず泣いていたのを覚えています。窓の外をぼわーんと眺めているような、まだまだ夢の中にいるような子どもだったと思います。「植物学」や「動物学」がとても面白く、教えてもらったことを今でも思い出すことがあります。

▼反抗や反発が生まれたことはありましたか？

6、7年生の頃はシュタイナー教育が大事にしていることに「なんで？」

しさという課題と合わせて突き詰めたくて、卒業プロジェクトではインドの孤児院を訪ねました。

▼高校生がひとりインドの孤児院を訪ねるといのは本当に大変なことだと思います。

たくさんの人に話を聞かせてもらい、つないでいただき、ビハール州というインドの中でも一番貧しいといわれる地域の孤児院に1週間行きました。孤児院には壮絶な生い立ちの子どもたちもいて、貧しい地域ではお金を寄付しても麻薬を買ってしまったら、観光客にお金をもらうために腕を切り落とす人もいるという現実を目の当たりにし、何が正しいのか混乱しました。孤児や貧しい人を「助ける」という上から目線の考えに違和感を感じ、貧しさという課

という反発もありましたし、クラスも不安定な時期でした。わたし自身も振り返ると人を傷つけてしまったことがあったと思います。その時期は先生も交えてクラスのみんなでたくさん話し合いました。そんな時期を経て迎えた8年劇が、わたしにとってひとつの大きなきっかけになりました。それまでのんびり流れに身を任せているタイプだったのが、はじめて「この役がやりたい」という役に出会い、自分の思いを舞台で達成できました。「やりたいと思ったことは実現できるんだ」という自信になり、その経験が10年生での交換留学につながったのではないかと思います。

▼高等部では交換留学にも行かれましたが、変化はありましたか？

アメリカのいろいろなシュタイナー学校に自分で連絡をとり、ニューハンプシャーのシュタイナー学校が受け入れてくれることになりました。3カ月間アメリカに行ってみて、自分の暮ら



当たり前だと思っていたことが自分の中に育ったものなんだ、とはじめて捉えることができ、ひとつの自信にもなりました。

▼インターン活動の後、助産師の資格を取り、愛媛の病院に就職されたんですね。

経験を積み、いずれ助産院で働きたい、助産院を作りたい、という夢があります。お産は赤ちゃんとお母さんがリラックスできる環境が大切だと思いますが、満足できる出産はその後の

しを客観的に見つめるきっかけをもらいました。日本のシュタイナー学校でもそれぞれが違う意見や個を持っています。アメリカではよりはっきりとそれぞれ発言しているのを見て「自分は自分でいいんだ」と改めて思うこともできました。

▼いつ頃から卒業後のことを考え出したのでしょうか？

母が弟や妹を自宅出産したり、近所でも赤ちゃんが何人も産まれたり、出産を身近に感じられる環境だったこともあり、出産ってすごいな、出産に関わる仕事がしたいなと思い、中等部の頃から助産師の夢を持っていました。アメリカで驚いたことのひとつが、養子を迎える家庭が当たり前にあるということでした。「うちは血はつながっていないからね」と話す姿に、血がつながっていないなくても家族なんだ、人は体験や苦難を共に越えて「家族」になっていくんだ、と思いました。それから孤児という課題に関心を持ち、貧

育児のひとつの自信になるのではないかとも思います。病院でも助産院でも、お母さんと赤ちゃんにとって豊かなお産になる手助けができれば、と思っています。

▼最後にシュタイナー教育で得たと思うものを教えてください。

その輪の中にいたときは当たり前に思っていたことですが、自分とはちがう人を受け入れる力。同時に自分を信じられる力。そのふたつを一緒に持つて、自分を生きる力を得られたと思っています。

過去の卒業生インタビュー
をご覧ください。また
ニュースレターのご登録も
こちらからどうぞ↓



コラム アーカイブ



ニュースレター登録

園児
募集

シュタイナー保育園 おひさま子どもの家

高尾



シュタイナー保育園おひさま子どもの家は、
高尾の陵南公園にほど近く、自然豊かな環境にある、シュタイナー学園の付帯施設です。
リズムある生活、穏やかな空間、自然素材のおもちゃ…あたたかな幼児期を過ごせます。
月曜日午前中、保護者のための見学会を随時開催しています。
日程などはシュタイナー学園HP「お知らせ」または下記までお問い合わせください。

ohisama_staff@fujinowaldorf.com

〒193-0824 東京都八王子市長房町1541-2 Tel:042-641-1051

<https://www.steiner.ed.jp/ohisama/>



Information

4/19 (金) 校内ツアー(旧オープンスクール)

7/20 (土) 一学期祭(公開)・校内ツアー

5/18 (土) オープンデイ

7/27 (土) 夏のシュタイナー学校&移住ツアー

6/1 (土) 入学・転入説明会、高等部体験授業

9/6 (金) お父さんのための座談会(オンライン)

6/7 (金) お父さんのための座談会(オンライン)

9/7 (土) 入学・転入説明会、高等部体験授業

6/15 (土) シュタイナー学園出張講座(青山学院大学)

9/28 (土) シュタイナー学園出張講座(青山学院大学)

6/21 (金) 校内ツアー(旧オープンスクール)

※内容・日程は変更する可能性があります。
詳細はシュタイナー学園のHPをご確認ください。



シュタイナー学園 初等部・中等部

〒252-0187 神奈川県相模原市緑区名倉2805-1
TEL 042(686)6011 FAX 042(686)6030

シュタイナー学園 高等部

〒252-0183 神奈川県相模原市緑区吉野407
TEL 042(687)5510 FAX 042(687)5540

<https://www.steiner.ed.jp/>



@fujinosteinerjapan



@steiner_gakuen



シュタイナー学園通信

2024年3月 制作・発行 学校法人シュタイナー学園

access

電車で JR 中央線「藤野駅」下車



お車で

中央自動車道「相模湖」ICより

